

農政の動き 2015年3月20日～3月25日

◇自民党 花き輸出拡大へ基本方針を了承◇

自民党は、農林関係合同会議を開き、昨年12月に施行された花き振興法に基づく「花き産業及び花きの文化の振興に関する基本方針」を協議、了承した。10年先を見通した花き振興策の指針で、鮮度など国産花きの強みを生かすコールドチェーンの整備などを進めて輸入花きのシェアを奪回するとともに、オールジャパンで輸出を拡大する方針を打ち出した。2025年度の産出額目標は6500億円とし、12年度の3761億円から引き上げ、輸出額は86億円から450億円に拡大する。輸入額は460億円から300億円に減らす。農家の経営安定では、生産基盤整備や知的財産の適切な保護・活用とともに、自然災害による損失を補てんする園芸施設共済の加入推進を明記した。(2015年3月20日)

◇全米販 7月に「中長期米仲介市場」を新設◇

全国米穀販売事業共済協同組合(全米販)は、翌月以降1カ月単位で引取期限が付された国産米の取引を仲介する「中長期米仲介市場」を7月に新設すると発表した。年間を通じた米の安定取引を目指す。参加要件は①年間500ト以上の生産実績・集荷実績②年間1千ト以上の仕入れ実績——のいずれかの該当者。申し込み単位は売り手、買い手とも100ト以上。産地置き場価格を用い、代金を事前に預かる仕組みで確実な決済を担保する。取引が一定量になった段階で銘柄別価格の公表を検討する。(23日)

◇酪農教育ファームの認証牧場数 減少続き294に◇

中央酪農会議(中酪)は、2014年度の酪農教育ファーム推進委員会を開き、14年度末の認証牧場数(見込み)は、高齢化による廃業などで前年度比5減の294と報告した。11年度の309をピークに減少傾向が続いている。認証牧場の拡大に向け、中酪は15年度は全国の酪農関係者などが参集する場で教育ファーム活動の情報発信などを強化する方針を示した。通常の酪農体験受け入れに加え、酪農家が学校現場に出向く出前授業のニーズも高まっていることから、研修会の開催や教材などの作成など取り組み支援を検討する。(24日)

◇NOSA I 全国が全国会長会議◇

NOSA I 全国(全国農業共済協会、高橋博会長)は、全国会長会議を開き、2014年度の収入保険制度検討調査事業の状況などを報告した。引き続き開いた臨時総会では、15年度事業計画などを審議し、全て原案通り了承された。(24日)

◇4～6月平均気温西日本は平年並みか高く◇

気象庁は、4～6月の3カ月予報を発表した。平均気温は西日本で平年並みか高い。(4月)全国的に天気は数日の周期で変わる。北・東日本太平洋側と西日本は、平年同様に晴れの日が多い(5月)北・東・西日本は、天気は数日の周期で変わる(6月)北日本は、天気は数日の周期で変わる。東日本日本海側は後半に、東日本太平洋側と西日本は期間を通じて平年に比べ曇りや雨の日が少ない。気温は東日本で平年並みか高い。(25日)

◇自民党 農協法改正法案の条文了承◇

自民党の農林関係合同会議は、政府が進める農協改革と農業委員会改革、農業生産法人の要件見直しに伴う農協法改正など関連法案の条文を審議し、了承した。政府は4月3日に閣議決定し、今国会に提出する予定。(25日)